

大村智先生の伝記を中国で刊行、重厚な装丁で格式高い

イベルメクチンを発見して 2015 年にノーベル賞を授与された大村智先生の伝記「大村智物語 ノーベル賞への歩み」（馬場錬成著、中央公論新社）の中国語本が、中国の「人民出版社」から刊行されました。

大村先生のノーベル賞授賞のとき共同受賞したのが屠呦呦先生です。大村先生は熱帯地方で蔓延しているオンコセルカ症（河川盲目症）、リンパ系フィラリア症の特効薬イベルメクチンの開発で受賞し、屠呦呦先生はマラリアの特効薬アルテミシニン（青蒿素）などの開発で受賞しました。

屠呦呦先生の伝記はすでに日本語訳で出版されており、その研究人生は、日本の若い世代に大きな影響を与えています。

格式高い装丁の中国語版

人民出版社は、主に哲学、社会科学、政治およびイデオロギーの書籍を出版している国営の総合出版社の一つです。日本人ノーベル賞学者の伝記本の出版はまれのこととなります。

写真に見るように、日本語版の装丁とは違った重厚な装丁でありびっくりしました。大村先生は長年、中国と学術・文化交流を深く重ねてきており、とても喜んでくれました。



大村先生と筆者。左は日本語本、右は中国語本。

ノーベル賞授賞式ではいつも屠呦呦先生と隣り同士だった

大村先生がノーベル賞を受賞したとき、筆者も一緒にストックホルムに行き、授賞式やノーベル・レクチャー、晩さん会などを取材しました。そのときいつも大村先生と一緒に行動していたのが屠呦呦先生でした。

授賞式前日のノーベル・レクチャーでは、大学の講堂でそれぞれ受賞した研究内容について講演しましたが、写真のように学生たちに囲まれて歓迎されました。



授賞式式典でも隣り同士に並び、国王からの賞状とメダルのご授与を受けました。



ノーベル賞レクチャーでも一緒に歓迎を受ける

研究の境遇が似ている二人の科学者

屠呦呦先生と大村先生は、無名の研究者からノーベル賞の栄誉を獲得するまでの研究人生がよく似ています。

どちらも誰からも顧みられないテーマに取り組み、研究費も乏しい不遇の時代がありました。大村先生は、日本でよく知られているトップクラスの大学や大学院を出たわけではなく、研究者としてスタートしたときは教授の講義の下書きなどをしていました。

アメリカに留学して帰国するまでは、研究費も乏しい時代を過ごしました。

屠呦呦先生も、科学者たちはかつて苦勞して研究に取り組みました。ベトナム戦争でマラリアに罹患して多くの犠牲者が出ましたが、同時にマラリアは海南、雲南、広西、広東でも主な死因の一つになっている感染症でした。

1967年にマラリアに関する新薬開発のプロジェクトがスタートして、そのリーダーになった屠呦呦先生は、伝統的な漢方の中から新薬を発見する研究に取り組みました。粘り強い研究は伝記の中でも語られており、最後についに特効薬を発見してノーベル賞を授与されました。

日中二人の科学者が海を隔てた国で、大きな業績をあげてノーベル賞にたどり着いたのは感動的です。二人の伝記が、日中の若い世代に読まれ、次の世代の研究者への育成になることを祈っています。

文：馬場鍊成（科学記者）